



2022年8月号

No.219

ウトナイ湖通信

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

トピックス

ウトナイ湖野生鳥獣保護センターボランティア活動について

野生鳥獣保護センターでは、1年を通して、来館者に向けたイベント、ウトナイ湖とその周りの自然を守るための調査や環境整備を行なっています。これらの活動は職員だけではなく、ボランティア登録いただいた皆さまにご協力いただき、実施することができています。今回は、当センターのボランティア活動の一部をご紹介します。



【ミニ自然情報収集と ゴミ拾い活動】

自然観察をしながら、ゴミ拾いを行ないます。見つけた自然情報も館内に掲示しています。



【自然情報収集調査】

自然観察路を歩き、動植物の情報を集めます。館内掲示板の地図に、情報を掲示しています。



【講演会・セミナー】

講演会などの受付や写真記録撮影、会場案内などのサポートいただいています。



【作成作業】

来館者案内用の掲示物の作成作業中の様子です。



【ウトナイ湖全域 水鳥カウント調査】

湖に見られる水鳥の種数を記録する調査です。初めての方には、調査用紙の記入などでサポートいただいています。



【自然観察会】

ガイドウォークや野鳥観察会で、ウトナイ湖の自然のガイドや、受付、記録写真撮影などのサポートをいただいています。

次回のボランティア体験講座は8月に開催します

8月27日(土)にボランティア活動の体験講座を開催します。当センターの紹介の後、屋外に出て実際に、ボランティア活動のひとつである「自然情報収集調査」を体験いただきます。受講後は、ボランティア登録もしていただけます。申込詳細等は最終ページをご覧ください。



6月のボランティア体験講座の様子

【自然観察路情報】観察された生きもの

2022年7月9日(土)10:00~11:50

《野鳥》キジバト、アオバト、ツツドリ、ハシブトガラ、シジュウカラ、ウグイス
ヤブサメ、センダイムシクイ、クロツグミ、キビタキ、ベニマシコ



ベニマシコ



キビタキ

《植物》【花】ホザキシモツケ、ノイバラ、イボタノキ、コウホネ、エゾノサワアザミ、エゾノレンリソウ、オオダイコンソウ、オトギリソウ、シロネ、ハエドクソウ、カワラマツバの仲間
ナワシロイチゴ、オオヤマフスマ、ノコギリソウ、ミゾソバ、ウマノミツバ、ウツボグサ

【つぼみ】ガガイモ【実】ズミ、ヤマグワ、エゾニワトコ、オオダイコンソウ、クサノオウ

【若い実】ヤマウルシ、ミズキ、カラコギカエデ、カンボク、ツリバナ、オオダイコンソウ

《昆虫》シオヤトンボ、シオカラトンボ、ヨツボシトンボ、セスジイトトンボ、アオイトトンボ
コクワガタ、ミヤマクワガタ、ハンノキハムシ、クロヒカゲ、クジャクチョウ、ウラジャノメ
キマダラヒカゲの仲間、ヒロオビトンボエダシャク、イタヤハマキチョッキリ
クロクサアリ、ハナムグリ、アオハナムグリ、ヨツボシヒラタシデムシ、キマワリ



クジャクチョウ

《その他》エゾマイマイ、ニホンカナヘビ、エゾシカ、ウラベニイロガワリ (キノコ) 箒サギ

【水鳥カウント調査結果】 2022年7月18日(月・祝) 15:00~16:00

観察された水鳥、ワシ・タカ類 * () 内は個体数

オオハクチョウ (1羽)、アオサギ (7羽)、オオジシギ (4羽)、ミサゴ (1羽)

トビ (1羽)、オジロワシ (3羽)、チュウヒ (2羽)、種類不明ツバメ (7羽)



オオジシギ

8月の自然予報

8月はウトナイ湖の花の最盛期。様々な花の観察をお楽しみください。

ゲンノショウコ



↑花の直径は1~1.5cm。
草地の低い位置に見られます。足元を見ると近くに咲いているかもしれません。

クサレダマ



↑茎の先に多くの花をつけます。日当たりのよい湿地を好むため、木道脇などに見られます。

ミゾソバ



↑小さな花が咲きます。葉の形から、別名「ウシノヒタイ」と呼ばれます。日陰の木道脇などに見られます。

エゾミソハギ



←高さ50~150cmほどに伸びる湿原に咲く花。鮮やかな色で、目にとまります。木道脇や湖岸沿いなどで見られます。



【カムリカイツブリ】

全長 56 cm

北海道では旅鳥。ウトナイ湖では8月ごろから見られるようになる。9月にはさらに数が増える傾向にある。

2021年の9月には、1日で23羽確認された。

日本で見られるカイツブリの中では最大。

(写真は夏羽)



*ウトナイ湖に関するクイズ

毎回、その月にあわせたテーマで出題しています。

あなたもウトナイ博士になれる?かも。

Q. 夏のウトナイ湖上には、魚取りにチャレンジするワシタカ類が見られることがあります。

【上空でホバリング(空中停止)→急降下】

して魚を捕る野鳥は?

(あ)

オジロワシ



(い) ミサゴ



(う) トビ

答えは最後のページです。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端を皆さんに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

オオハクチョウ

原因：釣り針・釣り糸



7月13日

市民より、市内の川で、翼から釣り糸をたらししたオオハクチョウがいると通報があり、市職員が現地で回収し、保護センターへ搬送。

釣り糸がたれさがっている元をたどると、手根骨付近(手首の骨の近く)で釣り針がささっており、針に付いた糸が翼に巻き付いていたことを確認。ただちにこれらを取り

リリース

除き、リリースとした。

オオハクチョウ (カモ目 カモ科)

全長140cm。雌雄同色。一般的には冬鳥で、10月頃に渡来し、5月上旬頃までには渡去します(一部越冬します)が、ケガなどが原因で長距離を飛行できず、苫小牧市内でも1年を通じ生息している個体もいます。主に河川や湖沼でくらし、水生植物の茎や根、種子などを採食します。

【開設20周年記念イベント】

★子どもスペシャル・セルフバージョン

子ども向けの、傷病鳥獣救護に関するクイズです♪

★第4回 奥山博美点描画展

はんだごて で板に焼き付けた野鳥や植物などの点描画です。

★特別展示

「取り巻く環境の移り変わり」、「開設からのウトナイ湖の野鳥と自然～積み重ねた調査の先に見えたものとは～」、「ウトナイ湖の鳥たち・剥製展」等

8月14日までの、
開館時間中に、
ご参加・ご覧いただけます♪



ラムートくん

【生きもの図鑑を作ろう ～ウトナイ湖で夏の生きもの探し～】



夏にウトナイ湖で見られる生きもの図鑑カードを持って、自然観察路やセンター周辺で、生きもの探しに挑戦していただきます。野鳥、植物、昆虫などを見つけて、ハンディ図鑑を完成させましょう！

開催日時：8月6日（土）、7日（日）、11日（祝）、13日（土）、20日（土）、21日（日）

受付 10時～16時（10時～12時、13時～15時はスタッフが対応します。）

※期間中の平日は、ご自身で受付・答え合わせをする形で参加いただけます。

対象：小学校生以上（幼児の参加も可能・小学生以下保護者同伴）

参加費：無料 申込：なし。直接会場へ



初級編に参加いただいた方には、中級上級編もご用意しています。夏休みの自由研究にいかがですか？

【ボランティア体験 講座】 8月27日（土） 9時30分～12時

当センターの概要と、行なっているボランティア活動についてお伝えします。
後半は、多くの花が咲く自然観察路にて「自然情報収集調査」を体験いただきます。
参加後にボランティア登録いただくこともできます。

対象：高校生以上 定員：10名（先着順） 参加費：無料

申込：8月2日（火）9時～25日（木）17時まで。電話で当センターまたは直接窓口へ



【お気軽ガイドウォーク in ウトナイ湖】 8月14日（日）10時30分～11時30分

対象：どなたでも（小学生以下保護者同伴）定員：先着 10名程度 毎月第二日曜日開催中

事前申込：なし。直接野生鳥獣保護センターへ※雨天時は、館内ガイドウォークに変更します。

◆ウトナイ湖◆

周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。

鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。また、苫小牧市が業務の一部を（公財）日本野鳥の会に委託しています。



【利用案内】

〒059-1365 苫小牧市植苗 156-26 / TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

入館無料 / 開館時間：午前9時～午後5時

休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌日）及び年末年始

答え：(い) ミサゴ

ミサゴは、湖の上空でホバリング（空中停止）した後急降下し、両足で魚を捕らえ飛び去って行きます。レンジャーやボランティアさんも夏のウトナイ湖ではこの光景を目にする機会が多いです。トビやオジロワシは、上空から降下し魚を捕らえることがありますが「急降下」するミサゴには及びません。

公式 SNS にて
情報を発信しています。
ぜひ、ご覧ください。

